



# フェンサーが語る スポーツと沼津



本市は日本フェンシング協会と包括連携協定を結び、フェンシング競技の裾野拡大、選手育成・強化に向けた取り組みを積極的に進めています。

日本フェンシング協会から本市職員に迎え入れたオリンピック出場経験のある長良将司さんと、本市出身でありフェンシングの国際舞台で活躍する鈴木穂波さんに、スポーツと沼津について伺いました。

## 沼津のポテンシャル

【広報】 アスリートであるお二人に、スポーツと沼津についてお伺いしたいと思います。まず、沼津の印象はいかがですか。

【長良】 4月に沼津に引っ越してきたばかりですが、自然が豊かで本当にいいところだと感じています。食べ物も美味しいですし。

【鈴木】 オリンピアンの方の沼津を好きになってもらえて嬉しいです。【長良】 週末は家族で市内巡りを楽しんでいるんですが、サイクリングをしている人をよく見かけます。

【鈴木】 海・山・川があって、自然を感じながら走るサイクリングにはもってこいのロケーションです。狩野川では高校生がボートの練習をする姿をよく見かけます。

【長良】 サイクリングやボートは沼津ならではの光景ですね。また、部活動やクラブチームなどが充実し、小さい頃からスポーツに触れる機会がたくさんあるように思えます。鈴木さんは小さい頃からスポーツをやっていたんですか。

【鈴木】 小学生の時にはダンス、中学生の時には新体操をやっていました。その後、広報ぬまづで知ったフェンシング教室に通い始めたことがきっかけで今の私がいいます。

【長良】 フェンシングに限らず、沼津市ではいろいろなスポーツ教室を開催しています。市民の皆さんがスポーツに触れる機会が多いという環境があると、自然と競技も盛り上がりそうです。

【鈴木】 そういった環境はポイント高いですよ。挑戦の幅が広がりますし。【長良】 環境を整える、って短い時間

でできることではないですからね。今ある環境をさらに活かしていくことで、沼津のスポーツはもっとよくなる可能性を秘めていると思います。

## アスリートにとって地元とは

【広報】 アスリートが競技をするうえで理想とする周りのサポートはありますか。

【鈴木】 声の力って思った以上に大きいんです。試合中に限らず声援はすごく励みになります。それは他のスポーツでも一緒だと思います。

【長良】 声をかけてもらえると、頑張るうってまずまず気合が入りますよね。【鈴木】 なかでも地元の声援はとても嬉しいです。沼津の皆さんに応援してもらえるように、私もプレーに磨きをかけたい。

【長良】 ホームの存在はアスリートにとって、とても心強いですからね。地元への応援って特別なんですよ。僕自身、地元の皆さんのおかげでオリンピックの舞台に立てたと思っています。

## 私たちにできること

【鈴木】 生まれ育った沼津で、たくさんの人に力をもたらしているからこそ、今こうして選手として活動できているんだと実感しています。沼津に帰ってきた時は必ず母校である西高に顔を出すようにしています。今まで以上に練習に励み、選手として活躍し、沼津を

盛り上げることで恩返しをしたいです。【長良】 市民の皆さんの応援を背に、選手も頑張る。すると、地域が盛り上がり、競技も発展していくことが期待できます。

【鈴木】 応援してくれるということは、沼津の皆さんもスポーツに関わりを持っていてということですからね。沼津出身のアスリートとして、とても嬉しく感じています。

【長良】 観戦や応援からでもいいので、多くの市民の皆さんがスポーツに関わることによって、沼津がもっとよくなる手ごたえを感じています。フェンシングにおいて地域が一体となって取り組む姿は珍しいんです。金メダリストの輩出も夢じゃないと信じています。

【鈴木】 どんな競技のどんなアスリートが出てくるか楽しみですね。

【長良】 競技を楽しむ、スポーツを観戦する、そしてアスリートを支える。沼津がスポーツを通して盛り上がるために、市民の皆さんももっとスポーツを楽しんで下さい。

沼津が持つ可能性をもっと活かしていくために、市民の皆さんも一緒にスポーツを「育てて」いきましょう。

スポーツによって、皆さんの活気が溢れることにより、誇り高い、元気なまち沼津が実現します。

◎スポーツ交流推進課

☎055・934・4843

長良将司（ながらまさし） 1977年岐阜県生まれ。シドニー・アテネオリンピックにサーフル種目出場。現役引退後、日本フェンシング協会公認コーチを務め、今年度から沼津市体育指導員として本市スポーツ交流推進課に勤務。

鈴木穂波（すずきほなみ） 沼津市生まれ。第二中学校から沼津西高卒業。中学からフェンシングを始め、2016年の全日本選手権のエヘ種目で個人3位・団体優勝し、翌年の世界選手権に出場。現在、本市の魅力や情報を発信する燦々ぬまづ大使としても活動中。

